

令和7年度

第4回学校運営協議会

令和8年2月18日（水）13：10～15：10

浜松市立西都台小学校

第4回 西都台小学校 学校運営協議会次第

令和8年2月18日（水）13:10-15:10 研修室

【進行 教頭】

- 1 はじめの言葉
- 2 会長挨拶
- 3 校長挨拶
- 4 前回会議録確認
- 5 議長の選出
- 6 熟議
 - (1) 来年度の学校運営の基本方針について
 - ①来年度の学校運営の基本方針について（校長）
 - ②協議【質疑応答】
 - (2) 来年度の教育課程（教育活動）について
 - ①来年度の教育課程（教育活動）について（教務主任）
 - ②協議【質疑応答】
 - (3) 学校運営協議会の自己評価
- 7 報告
 - (1) 今年度のいじめ対応について（教務）
 - (2) 通学路の危険箇所等について（教頭）
 - (3) 夢育やらまいかCS加算分の報告（口頭にて）（教頭）
 - (4) CSだよりの発行（教頭）
 - (5) 学校支援コーディネーターの活動（坂下）
- 8 連絡
 - (1) 来年度の開催について
 - ・年間4回を予定
 - ・令和8年度第1回開催日時 令和8年4月23日（木）13:10-15:10【仮】
 - (2) その他
 - ・令和7年度卒業証書授与式
 - ・令和8年度入学式
- 9 終わりの言葉

令和7年度 西都台小学校 学校運営協議会出席者一覧

【学校運営協議会委員】

NO.	氏名	役職など
1	田澤 健司 (会長)	学識経験者(元私立学校副理事長)
2	池谷 智晴 (副会長)	元小学校長・元幼稚園長
3	高部 信男	志都呂団地自治会長
4	横原 広明	志都呂自治会長
5	稲垣 正彦	西鴨江自治会長
6	松下 正行	学識経験者(市議会議員)
7	坂下奈生子	学校支援コーディネーター
8	吉野 好永	民生委員・児童委員
9	辻村 悠介	R7 PTA顧問
10	八嶋 志帆	R7 PTA副会長

【オブザーバー】

野嶋 俊之	入野協働センター所長
-------	------------

【学校職員】

NO.	氏名	役職など
1	小嶋 澄華	校長
2	山内 剛治	教頭
3	大木 賢司	教務主任
4	山本 洋介	CS担当教職員
5	和久田里恵	CSディレクター

令和7年度 西都台小学校運営協議会 年間計画

令和7年4月1日～令和8年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等
1	4月23日 水曜日 13:10～15:10 研修室	熟議テーマ (1)学校運営の基本方針 (2)夢育やらまいかCS加算分について
2	7月23日 水曜日 13:10～15:10 研修室	熟議テーマ (1)前期学校評価の分析と2学期以降の重点について (2)学校支援活動について
3	12月10日 水曜日 13:10～15:10 研修室	熟議テーマ (1)令和7年度全国学力・学習状況調査の結果と分析 (2)後期学校評価の結果と分析
4	2月18日 水曜日 13:10～15:10 研修室	熟議テーマ (1)次年度学校運営の基本方針について (2)次年度教育課程について (3)学校運営協議会の自己評価 <input type="checkbox"/> 今年度のいじめ対応について <input type="checkbox"/> 夢育やらまいかCS加算分の報告

令和8年度学校経営構想

1 国の動向

将来の予測が困難なVUCA（「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」）と言われる時代の中で、社会の変化に主体的にかかわり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮するとともに他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生（Well-being）の創り手となる力を、子供一人一人に身に付けられるようにすることが重要である。

2 市の方針（第4次浜松市教育総合計画）

（1）基本理念及び3つのコンセプト

『描く夢や未来の実現』⇒「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」

（2）目指す子供の姿

- ア 自分らしさを大切にする子供
- イ 他者と協働し、主体的に行動できる子供
- ウ 自己調整しながら、粘り強く取り組む子供

（3）目指す教職員の姿

- ア 子供の自分らしさを受け止める教職員
- イ 愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ウ 専門性と指導力を磨き続ける教職員

＜浜松市校長会議＞

～ 野秋教育長の講話より ～

- ・「自分らしさ」を磨く価値のある学校に
- ・「描く夢や未来の実現」のための自校のよさ、特色を伸ばす。

3 入野中学校区 目指す子供の姿

「夢に向かってたくましく生きる子供」

4 学校・地域の状況及び願い

（1）地域資源（物的資源・人的資源）の充実

ア 物的資源の充実

竹林や田畑等の自然や歴史的文化財（寺や遺跡等）に加え、区画整理事業に伴う大型ショッピングセンターや飲食店等の進出により、新旧の街並みが融合している。

イ 人的資源の充実

様々な業種（農業、企業等）や伝統工芸（竹炭・竹細工等）に携わる地域や保護者ボランティア等の多くの方々が、学校支援のために活動してくれている。

ただし、地域ボランティアの方々の高齢化が進んでおり、今後、地域資源を生かした持続可能な教育活動の在り方について検討していく必要がある。

（2）西都台小学校への願い

学校周辺に広がる『竹』のように、子供一人一人が『たくましく』『しなやかに』成長してほしいという願いが受け継がれている。学校に対して「一人一人を大切にする教育」を強く願っている。

5 子供の実態

- ◎自分の気持ちに素直で明るく、問い掛けに対して子供らしい反応を返す子供が多い。
- ◎与えられた学習課題や言われたことに真面目に取り組む子供が多い。
- ◎「なりたい自分に向かって、自分なりの方法を見つけて取り組んでいる」と肯定的に捉え、対話を通して自分の考えを広げる姿勢が育ってきている。

- 自ら（自分たちで）考え、判断し、行動しようとする主体性や、物事を最後まで粘り強くやり遂げようとする態度にやや欠ける。
- 発達障害をもつ子供や家庭環境に恵まれず愛着障害を抱える子供の増加がみられる。
- 正しい行動が分かっているにもかかわらず、周りに流されて正しく行動することができないことがある。

6 令和8年度学校教育目標

なりたい自分を目指し、やりたいことを見つけ、ともに挑戦し続ける子 ～たくましく【主体性】しなやかに【協働性】～

令和6年度より、子供たちとともにこの学校教育目標の具現を目指してあらゆる教育活動に取り組んできた。その結果、教職員にも子供たちにも、この学校教育目標が浸透し始めてきている。そこで、子供一人一人が物事に主体的に向き合い、他者と協働的にかかわり合いながら、粘り強く挑戦し続けることを通して、自分（自分たち）のよさや可能性をより一層輝かせながら、子供自ら魅力ある楽しい学校生活を創り上げていこうとする力をさらに育てていくために、今年度も、「なりたい自分を目指し、やりたいことを見つけ、ともに挑戦し続ける子～たくましく【主体性】しなやかに【協働性】～」を継続していく。

(1) 「なりたい自分」とは？

たくましく【主体性】	しなやかに【協働性】
◎「どんな自分になりたいか」といった目標や夢を持ち続けようとする事 ◎自分の良さや可能性を発揮しながら、自分らしく生きていこうとする事	◎「どんな学級・学年・学校にしたいか」といった目標を共有し、その目標の具現化に向けた自分や自分たちのあるべき姿を考えながら生活を送ろうとする事

なりたい自分や自分たちの姿（目標）を描かせることは、子供たちが主体的・協働的に教育活動に取り組むうえでの原動力となり、なりたい自分や自分たちの姿（目標）を目指していくことの積み重ねが、将来の夢やよりよい社会の創り手に繋がるものとする。

(2) 「やりたいことを見つけ」とは？

たくましく【主体性】	しなやかに【協働性】
◎「なりたい自分」に近づくために、自分の良さ・可能性を踏まえながら、必要な力を身に付くために、自分がやってみたいことを見つけること	◎「なりたい学級・学年・学校」に近づくために、自分たちの良さや大切にしたいことを踏まえながら、学級・学年・学校でやってみたいことを見つけること

やりたいことを見つけさせていくうえで、子供自身が「この学びは、将来のこんな力につながるんだ。」「この行事で、こんな力を付けることができるんだ。」等を理解したり、それらの力を身に付けていくための道筋（見通し）を持ったりするなど、自分や自分たちの学習活動や生活態度等に主体的に向き合い、自他の取組や行動を省察することで、自らの学びを調整したり自分たちの行動を軌道修正したりしていくことが大切である。

(3) 「ともに」とは？

たくましく【主体性】	しなやかに【協働性】
◎自ら進んであらゆる「ひと」「もの」「こと」にかかわりながら、自分に必要な知識や技能、能力、態度等を身に付けていこうとする事	◎多様な他者の考えや立場を理解したり受け入れたりするとともに、対話を通して合意形成を図ったり、役割を分担し協力して実践したりしようとする事

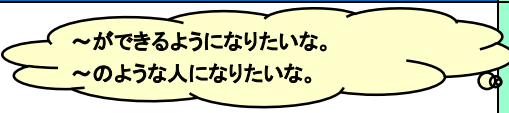
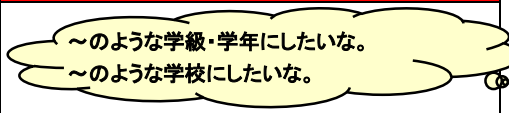
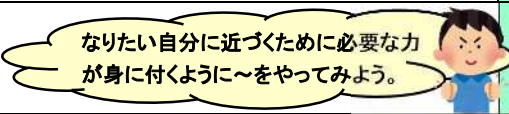
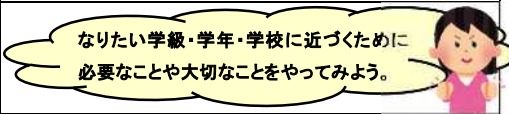
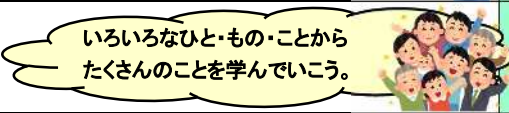
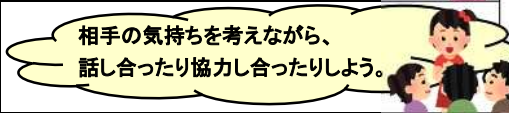
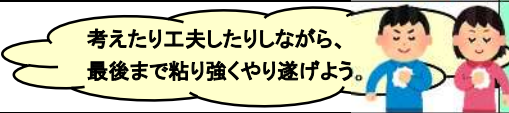
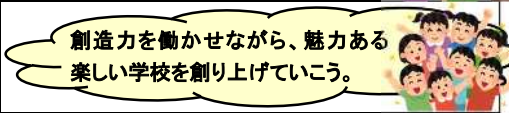
あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な他者（同学年や異学年、教職員や地域の人々、専門家、先哲の考え方等）と協働したり対話をしたりすることを通して、一人一人の良さや可能性と異なる考え方が融合し、よりより学びを生み出していくことが期待できる。

(4)「挑戦し続ける」とは？

たくましく【主体性】	しなやかに【協働性】
◎多少の困難が生じて諦めることなく、解決する方法を考えたり工夫したりしながら、なりたい自分を目指し自分がやりたいと決めたことを粘り強くやり遂げる	◎既存の学校生活を受け入れるだけでなく、主体性・協働性・創造性を発揮しながら、自分たちでよりよい学校（魅力ある楽しい学校）を創り上げていこうとすること

なりたい自分や自分たちを目指すことは、新しい未来＝今よりもよりよい未来を切り拓いていこうとすることであり、その過程には多少の困難が生じることもある。新たな目標に挑戦し、例えうまくいかないことが生じたとしても諦めることなく、試行錯誤しながら挑戦し続けていこうとする粘り強さを身に付けていくことが、これからの社会を生き抜くうえで大切な資質の一つとなる。

※児童とは、以下の表のように共有する。

たくましく【主体性】	【学校教育目標】	しなやかに【協働性】
	なりたい自分を目指し	
	やりたいことを見つけ	
	ともに	
	挑戦し続ける	

7 令和8年度目指す子供像の重点及び目指す子供の姿と手立て

目指す子供像		《重点》「自分らしく ともに 挑戦し続ける子」		
		【知】 確かな学力	【徳】 豊かな心	【体】 健やかな体
目指す子供の姿	主体性	学び方を工夫し、楽しく学ぶことができる。 □	自分も相手も大切に、正しく判断し行動することができる。♡◇	心と体を守り、目標に粘り強く挑戦することができる。◇□
	協働性	「聴く」を大切にし、対話で考えを深めることができる。♡	課題を自分事と捉え、協力して実行することができる。□♡	ともに挑戦し、喜びを分かち合うことができる。♡□☆

※キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力「♡かかわろう」「◇みつめよう」「□やってみよう」「☆つなげよう」と関連付ける。

【手立て】

◎いじめや不登校が起きにくい、温かな学校・学級風土づくり

- 学級づくり研修の継続（特活・道徳） **知**
 - ・学級目標、学級会、学年・学級イベントの実施等、全校で取り組み積み上げること
- 「聴く」を大切にされた対話・言葉遣い・挨拶 **知 徳**
 - ・「聴く」＝相手を大切に思う（他者理解・尊重→信頼関係の構築）
 - ※「聴く」とは？言葉の押さえと共有化
 - ・「正しい」「よい」言葉遣い・挨拶とは？言葉の押さえと共有化
- 誰もが安心して過ごすための規範・規律指導 **徳 体**
 - ・学習・生活等のきまり 安全意識の向上
- 発達支持的生徒指導（プロアクティブ）の徹底
 - ・全職員で挨拶・子供の思いを「聴く」・褒める、勇気づけのボイスシャワー
→子供たちの安心感・レジリエンスを育む

◎主体的・協働的に学びを求める子の育成…子供も先生も楽しい授業・行事づくり

- 校内研修の充実 **知 徳**
 - ・単元レベルでの授業構想（主体的・協働的）
 - ・「聴く」等、言葉の押さえと共有化（技能として・風土として）
 - ・学級づくり、発達支持的生徒指導との関連性
- 子供たちが主体的協働的に創り上げる学校行事やイベント **徳 体**
 - ・子供たちの思いを生かし、子供たちが主体的協働的に創り上げ、喜びを分かち合うこと
とができる運動会、学級学年イベント、委員会イベント等

◎学習指導要領に沿った教育活動

- キャリア教育とのつながり **知 徳 体**
 - ・キャリアパスポートの活用（特活）
 - ・カリキュラムマネジメントを意識した計画と実践（生活科・総合等）
- 個別最適な学び・協働的な学び・主体的対話的で深い学びの実現 **知**
 - ・ICT活用（具体的な方法・場面）

◎地域との連携・協働の継続・見直し

- 「総合的な活動の時間」年計の見直し
 - ※「つけたい力」が育つための活動・学校も地域も WIN WIN
- CS活動
 - ・子供たちの成長のための支援

8 学校経営目標（学校教育目標を達成するための土壌となる学校風土）

温かく居心地のよい学校

～ 温かく丁寧な生徒指導・発達支援教育の理念に基づいた児童理解 ～

- ・自己肯定感の醸成：居心地がよいだけでなく「温かい」場所であるからこそ、「ありのままの自分」が認められる場所とすることができる。
- ・挑 戦 の 土 壌：子供は失敗を恐れずに、「なりたい自分」に挑戦できる。
- ・関 係 性 の 質：協働性において、単なる効率的な協力ではなく、相手を思いやる温かな対話（聴くことの重視）がより強調される。

（1）温かく丁寧な生徒指導の積み上げ

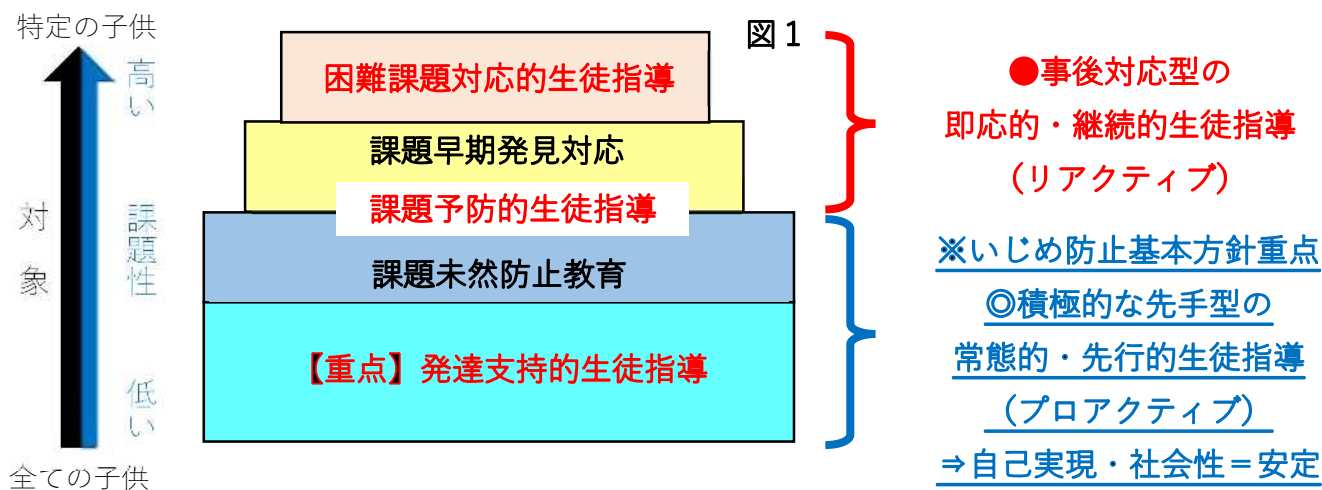
令和7年度に引き続き、特定の子供を対象とする事後対応型の即応的・継続的生徒指導（リアクティブ）に加え、いじめ防止基本方針の重点として、全ての子供を対象とする「積極的な先手型の常態的・先行的生徒指導（プロアクティブ）に重点を入れて取り組み、学校生活の安定を図る。

※プロアクティブ・リアクティブについては図1を参照

「プロアクティブ」には、子供の個性の発見と良さや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える教職員の働き掛けが重要である。よって、日々の教職員の子供への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話等、日々の授業や行事等を通じた個と集団への働き掛けと、傾聴・受容・共感に基づく深い児童理解に努めることを大切にしたい。

【図1】

常態的・先行的生徒指導（プロアクティブ）と即応的・継続的生徒指導（リアクティブ）



（2）発達支援教育の理念に基づいた児童理解

まず教師が、子供たちの多様性を受け止める。また、その子の背景も含めた児童理解に努め、一人一人の思いを聴く。そうすることで、子供たちに「聞いてもらえる。」「話しているんだ。」という安心感が育つ。この教師の姿こそが、温かい学級のモデルとなり、温かく居心地のよい学級風土の基礎となる。

(3) 保護者・地域との連携・協働

○地域資源を有効活用した教育活動の充実

・総合的な活動の時間 地域の「ひと・もの・こと」の活用

○コミュニティ・スクールの推進

・竹っ子サポーターによる学習・環境支援の充実、地域ボランティアによる見守り

(4) 保護者・地域への情報発信

○「地域とともにある学校・地域に開かれた学校」を目指した発信と実践

※活動の目的や意図・学校や教職員の願い・子供たちの表れや成長を知ってもらうよい機会と捉える。→計画・実行

・各種たより

・学校運営協議会

・ブログ(学年・各分掌等、それぞれの立場で見て、様々な教育活動を知ってもらう)

(5) 同僚性を発揮し、「働きがい」のある職場に

○限られた時間の中で、よりよい成果を上げられる取り組み方法を考え、実践
～働き方改革の推進(7時20分～18時30分)～

・学校全体として→時間を大切に使う意識 見直し・削減できることの洗い出し

・自分自身として→自分の健康と時間を大切に well-being の向上

・子供たちの成長にとって絶対的に必要なことを見極める

・早急に対応すべきこと(いじめ・命にかかわること)はすぐに対応

※何でもやめる・減らすことがよいわけではない。

一人で抱えないで組織対応 プロ意識をもって「働きがい」のある取組を

9 目指す教職員集団

◎同僚性を大切に

心理的安全性

1999年 ハーバード大学エイミー・エドモンドソン教授提唱

「チーム内で対人関係のリスク(無知・無能・否定的・邪魔などと思われること)を取っても安全だとメンバーが共有する信念」

・気軽に会話、なにかあればすぐ相談、「完璧な人間はいない」「困ったときはお互いさま」で支え合う。

・様々な年齢、経歴、経験だからこそ、多面的多角的に物事を見てよりよいものを創り上げることができる。思ったことは、遠慮なく出し合える仲間でありたい。それが納得解、最適解につながる。

◎子供の「その子らしさ」を受け止め、温かく愛情を持った指導を

・まず教師が、子供たちの多様性を受け止める。また、その子の背景も含めた児童理解に努め、一人一人の思いを聴く。そうすることで、子供たちに「聞いてもらえる。」「話していいんだ。」という安心感が育つ。そして、この教師の姿こそが、温かい学級のモデルとなり、温かく居心地のよい学級風土の基礎となる。

- ・子供のよさを教職員で共有し、多くの教職員が多くの子供たちに温かい声掛けをしていく。

◎学び続ける教師

- ・子供も先生も楽しい授業・行事にするために、教材研究や同僚に聞くことを自らが求め、自分の力量を高める。
- ・「プロ意識」をもって学び続ける。

◎保護者の思いに心を寄せる

- ・「困った子」「困った保護者」ではなく、「その子も保護者も困っている」という思いで、保護者の思いに心を寄せる。
- ・子供の思いや特性、保護者の考えやニーズを踏まえ、学校と家庭が連携を図りながら発達支援教育の理念を根幹に据えた教育を進めていく。

令和8年度教育課程【ダイジェスト版】

学校教育目標（令和7年度から引き続き継続）

なりたい自分を目指し、やりたいことを見つけ、ともに挑戦し続ける子
～ たくましく【主体性】 しなやかに【協働性】 ～

学校教育目標実現に向け、次の点を改善していきます！

①子供たちが主体的に活動してよりよい学級をつくっていけるよう「学級活動」に力を入れます！

- 子供主体で話し合って学級目標をつくることで、子供たちが目標に向かって主体的に活動し、よりよい学級をつくっていくことができるようにします。
- 意図的に学級活動の充実、特に話し合い活動(学級会)の充実を図ったり、話し合いの議題を集めるための学級ポストを作成したりして、主体的・協働的に学ぶ土台を築きます。

②キャリアパスポートを子供たちの成長につなげていきます！

☆キャリアパスポートとは

自分の立てた目標に向かって取り組んだ様子や、取り組みについての振り返りを記録していくものです。記録していくことを通して、自分自身の成長と変容を感じるとともに、自己理解を深めていくことができるようにしていくものでもあります。

なお、キャリアパスポートは毎年綴じていき、高校3年生まで引き継いでいきます。

○新年度になってすぐに年間の目標（知・徳・体の項目ごと）を立て、キャリアパスポートに書き込みます。

- ・前期の終わりには自分の立てた目標を振り返り、自分の成長の実感を通して自己肯定感を高めたり、目標の軌道修正を図ってさらなる変容を目指したりすることができるようにします。
- ・前期、後期それぞれ振り返りをした際には、キャリアパスポートを家庭に持ち帰り、子供たちの頑張りや成長を保護者の方に伝えられるようにします。

今年度のキャリアパスポート
です。
令和8年度は形式を一部変更
する予定です。

③「郷土愛(地域愛)」をキーワードに、「総合的な学習の時間」の学習計画を見直します！

○地域の「ひと・こと・もの」との結びつきを重視し、「郷土愛(地域愛)」を育むことを中核として、総合的な学習の時間の学習計画を見直します。

○どの学年においても「地域の課題」「地域のよさ」「自分が取り組めること」について考えをまとめ、6年生での学びに生かします。

○地域資源(人的・物的)を生かした体験活動・探究的な学びを推進することで、学びに主体的に関わろうとする態度の育成を図ります。



④「周りの人を大切にする言葉遣い」「進んで挨拶」への意識を高めます！

○浜松マナー(デジタル版)を活用し、定期的に気持ちのよい挨拶とは何かを確認したり、日頃の挨拶や言葉遣いを簡単に振り返ったりすることで、子供たちの意識を高めます。

○道徳の学習で「言葉遣い」や「挨拶」に関する内容を重点指導として行うことで、教師、子供たちが共に、よりよい言葉遣いや挨拶への意識を高めることができるようにします。

⑤「けがの防止」と「運動機会の充実」の両立

○20分休みや昼休みのサッカー遊びについて

・子供たちが外で遊びたいと思うことができるように、ゴールがコーンである「コーンサッカー」から、子供たちが安全に持ち運びすることのできる高さ80cmほどのミニゴールを使える「ミニゴールサッカー」(4年以上対象)に遊び方を変更します。

・ボールが頭部や顔、腹などに当たったときのけがのリスクを減らすために、やわらかいボールを使用します。

・年度初めに運動場の使い方についてのオリエンテーションを開き、運動場のルールや安全な遊び方について確認をします。

○下運動場南側をドッジボールエリア、東側をサッカーエリア、西側を鬼ごっこやその他の遊びができるフリースペースとしてエリアを分け、子供たちがいろいろな遊びに取り組んだり、安全に遊んだりすることができるようにします。

⑥情報教育に力を入れます！

○3年生以上は、月曜日もしくは火曜日にタブレット端末を持ち帰り、家庭学習で活用します。

○子供向けの「情報モラルに関する講座」を年2回実施して、安心・安全な情報端末の利活用を推進します。また、児童の講座だけでなく、保護者向けの情報モラル講座(年1回)も実施します。



⑦日課が変わります！

- 3年生以上も、毎週水曜日が5時間授業になります。
- ・3年生以上は週2回（月・水曜日）が5時間授業となります。（火・木・金曜日は6時間授業）
- ・1、2年生の日課に変更はありません。
- 毎週水曜日が5時間授業になる関係で、授業時間を確保するために4～6年生は週2回モジュール学習を行います。
- ☆モジュール学習とは
 - 通常45分の授業を15分程度の短い単位（モジュール）に分割して取り組む学習形態のことをいいます。
 - ・朝活動の時間(15分)で週2回を予定しています。
 - ・モジュール学習を3回行うことで1時間分（45分間）の授業とします。モジュール学習では、国語科、算数科の学習に取り組みます。
- 令和7年度に引き続き、7月及び9月はWBGTが高く、外遊びができない日が多いため、7月及び9月をサマータイム期間とし、月曜以外は基本特5・6日課で運用します。（児童の下校は15分間早くなります。）
- 令和7年度に引き続き2年生の6時間目への慣らしの時間を設けます。（3学期に2回）

⑧予定帳の運用方法の変更

- 3年生以上には、2週間分の学習計画を記載した予定表を配付します。それにより、3年生以上は、予定帳を使用しません。（ただし、発達段階を考慮し、3年生は4月から1冊分は予定帳を使用し、その後、予定表の配付に移行していきます。）2週間分の予定が手元にあることで子供たちが学習の見通しをもつことができるようになること、朝の時間にゆとりをもつことができることがねらいです。（特に5、6年生は委員会等で朝から忙しく、予定を書く時間が足りないのが現状です。）

⑨その他の変更点について

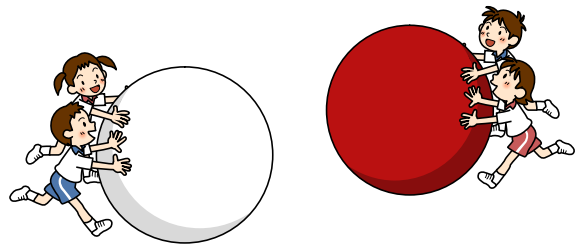
- 清掃時に三角巾をつけなくなります。そのため、三角巾を持ってくる必要がなくなります。
- 4月8日の始業式の日には1～5年生は特2日課となり、例年より下校時間が早くなります。6年生は入学式の準備のため、特4日課です。

令和8年度 浜松市立西都台小学校 主な行事（予定）

R8. 2. 19

1学期

- 4月 8日(水)新任式、始業式(午前)※特2日課 (下校)1~5年9:50、6年11:50
- 4月 9日(木)入学式(午前)
- 4月14日(火)・15日(水)・16日(木)家庭確認
- 4月23日(木)6年全国学力・学習状況調査
第1回 学校運営協議会(第2回以降の予定は今後お知らせします)
- 4月25日(土)参観会(午前)(週休日の振替日4/27(月))
- 4月30日(木)1年生を迎える会・遠足
- 6月19日(金)参観会・懇談会
- 7月13日(月)・14日(火)・15日(水)・16日(木)・17日(金)・21日(火)三者面談
- 7月14日(火)5年30分間回泳(自校開催)
- 7月22日(水)1学期終業式(午前)
- 7月23日(木)~8月31日(月)夏季休業



2学期

- 9月 1日(火)2学期始業式(午前)
- 9月18日(金)参観会
- 9月28日(月)~10月2日(金)5年林間学校説明会(この週にオンデマンド配信)
- 9月29日(火)~10月2日(金)新体力テスト測定
- 10月19日(月)~23日(金)6年修学旅行説明会(この週にオンデマンド配信)
- 10月27日(火)・28日(水)5年林間学校(かわな野外活動センター)
- 11月 7日(土)竹っ子運動会(午前)(週休日の振替日11月 9日(月)※予備日 8日(日))
- 11月19日(木)・20日(金)6年修学旅行
- 12月14日(月)・15日(火)・16日(水)・17日(木)三者面談
- 12月18日(金)2学期終業式(午前)
- 12月19日(土)~1月 6日(水)冬季休業

3学期

- 1月 7日(木)3学期始業式(午前)
- 2月16日(火)参観会(学習のまとめ)
- 2月26日(金)6年生を送る会
- 3月18日(木)1年~5年修了式(午前)
- 3月19日(金)6年卒業式(午前)
- 3月26日(金)離任式

2月19日(水)現在の予定です。
今後、変更する場合があります。
新年度に、改めてお知らせします。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

＜本年度の目標＞

- 学校支援活動の充実、竹っ子サポーター（地域ボランティア）の拡大
- 地域や学校によさ、課題を踏まえた教育活動や学校支援の充実

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

--

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

--

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

--

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

--